

日本環境会議島根大会で取り組み状況を報告

「原発災害」のない社会をどうつくるかをテーマに、3月17日(土)18日(日)松江市の島根大学において 第29回日本環境会議島根大会が開催されました。

二日目のセッションにおいて「木質バイオエネルギーと地域再生」というテーマでNPOフォレストアカデミージャパンから日南町地域での森林資源活用に関し取り組み状況を報告しました。

報告内容のポイント

- ・中山間地域の抱える地域課題を、森林資源の利用活用することで地域の産業・雇用の創出に努力している。
- ・単板積層材製造工場(株オロチ)の稼働を機に原木生産量が急増している。
- ・林地に残っている枝・葉・根も含め木質バイオマスを、最終的には燃焼による電気エネルギーを作ることになるが、それだけでは収支が合わない。
- ・当地域では、燃焼までに抽出液製造、ガソリン代替え製品や消毒用のエタノールの抽出などの産業を組み合わせた全体的に見た収支を取れるような仕組みづくりに向け、研究を進めている。
- ・また、木質バイオマスを利用するには含有している水分をどのように少なくすることが課題でもあり、熱量収支の点からも検証しておくことも重要。

参加者からの意見・質問

島根原発の3キロのところに住んでいる方

島根県側の森林組合と連携し、三隅火力発電所に木質チップをどんどん入れることも考えてほしい。

→チップの大きな活用として森林サイドとしても取り組んでいくべきこと。

ただし、量と質(含水)で安定的に受け入れていただくには多くの課題がある。

岩手県からの参加者

林業・木材産業は補助金ありきと思うが、どう考えるか

→昭和39年からの木材輸入自由化のなか、国内の林業は苦戦を強いられている。

補助金は必要なものだが、将来的には自立できなければならない。

福島県からの参加者

がれきの処分で苦勞しているが利用方法はなにか

→林野庁のほうで木質部分を処理することを進めていると聞いている。

原発避難者、震災被災者の雇用受け入れはどうか

→産業を確立し雇用を増やし、是非ともターンなどを受け入れたい。

日南町における「林地集約化研究会」の状況について

山林の一体的管理・経営をめざし、小規模山林所有者の方や遠方に住まいされ管理や施業を任せたいという方々の山林について、どのような仕組みを作っていけばよいのか研究してきました。

昨年3月～、島根大学の教授を座長に進めてきました。

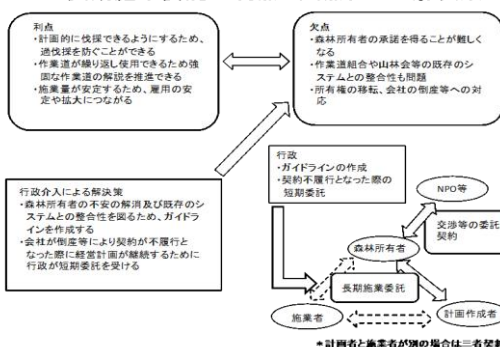
この「日南の森林だより」で同封したアンケートの結果も分析しながら、また、地域での聞き取り調査の結果なども含め、整理してきているところです。

これまで、売り払いの意向を含め、具体的な話をお聞きしたりしていますが、今後、なんらかの組織が窓口となり、契約実務をすすめていきたいと考えています。

受託者との信頼関係や、どの程度の費用がかかり、どの程度の収益が還元されるのかなど、まだまだ解決しなければならない課題も多いのですが、早急にそれらの対応方針も検討しながら皆様にお話しできるようにしたいと考えています。

研究会のまとめている方向案

長期施業委託の利点と欠点および解決策



事務の流れとNPO等の関わり方

